

# 企業理念

## 地域を創造するトータルコア企業

### 概要

名称	飯塚信用金庫	会員数	15,980人
所在地	福岡県飯塚市本町11番42号	店舗数	20店舗
創立	大正11年12月22日	役員数	200名
預金残高	293,854百万円	営業地区	福岡県一円
貸出金残高	157,255百万円		(2023年9月30日現在)



## 9月仮決算のご報告



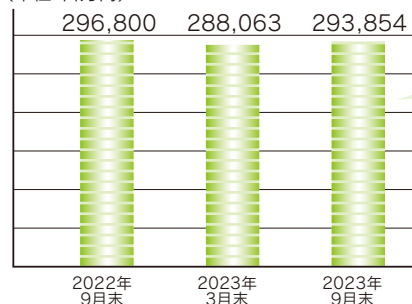
### 預金積金の状況

(2023年9月30日現在)

残高

# 2,938億円

(単位:百万円)

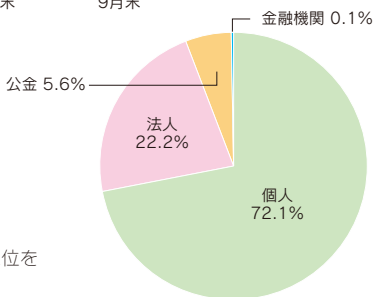


上半期で  
58億円  
増加

### 預金者別 残高構成比

(2023年9月30日現在)

※構成比は、小数点以下第2位を四捨五入しております。



### 業務純益

(単位:千円)

	2021年9月	2022年9月	2023年9月
業務純益	1,100,378	894,022	806,834
実質業務純益	1,100,378	890,851	806,834
コア業務純益	1,011,134	843,724	1,017,684
コア業務純益 (除く投資信託解約損益)	953,909	766,834	840,257

(注)

- 業務純益＝業務収益－(業務費用－金銭の信託運用見合費用)  
金融機関の基本的な業務(本業)に係る利益を示します。  
具体的には、資金運用収支・役務取引等収支・その他の業務収支の合計から、業務遂行に必要なとされる経費(除く臨時経費)を控除したものです。
- 実質業務純益＝業務純益＋一般貸倒引当金繰入額  
実質業務純益は、業務純益から、一般貸倒引当金繰入額の影響を除いたものです。
- コア業務純益＝実質業務純益－国債等債券損益  
国債等債券損益は、国債等債券売却益、国債等債券償還益、国債等債券売却損、国債等債券償還損、国債等債券償却を通算した損益です。

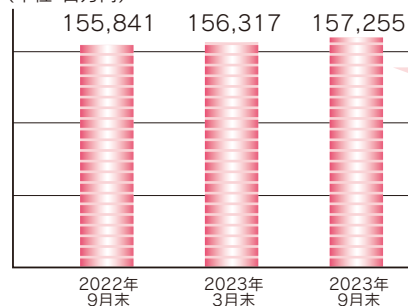
### 貸出金の状況

(2023年9月30日現在)

残高

# 1,572億円

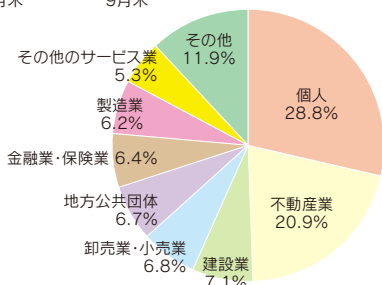
(単位:百万円)



上半期で  
9億円  
増加

### 貸出金業種別 残高構成比

(2023年9月30日現在)



### 貸出金業種別内訳表

(2023年9月30日現在)

(単位:百万円)

業種	2022年9月末残高	2023年3月末残高	2023年9月末残高
製造業	9,258	9,759	9,701
農業、林業	387	391	371
漁業	—	—	—
鉱業、採石業、砂利採取業	3	3	3
建設業	10,996	11,424	11,159
電気・ガス・熱供給・水道業	4,114	4,562	4,478
情報通信業	545	571	570
運輸業・郵便業	2,218	1,901	1,831
卸売業・小売業	10,575	10,382	10,645
金融業・保険業	9,965	9,928	10,076
不動産業	31,407	31,322	32,813
物品賃貸業	377	336	369
学術研究・専門・技術サービス業	834	874	921
宿泊業	1,452	1,378	1,337
飲食業	2,831	2,746	2,664
生活関連サービス業・娯楽業	1,670	1,627	1,862
教育・学習支援業	504	537	504
医療・福祉	3,730	3,715	3,798
その他のサービス業	8,261	8,262	8,267
地方公共団体	10,672	10,881	10,553
個人	46,031	45,706	45,323
合計	155,841	156,317	157,255

## 有価証券の時価情報

### ①満期保有目的の債券で時価のあるもの

(単位:百万円)

	2023年3月末		
	貸借対照表計上額	時価	差額
債券	—	—	—
その他	4,841	4,959	117
合計	4,841	4,959	117

	2023年9月末		
	貸借対照表計上額	時価	差額
債券	—	—	—
その他	4,341	4,398	57
合計	4,341	4,398	57

### ②その他有価証券で時価のあるもの

(単位:百万円)

	2023年3月末		
	貸借対照表計上額	取得原価	差額
株式	1,017	1,119	△ 102
債券	66,117	69,055	△ 2,937
その他	34,546	36,606	△ 2,060
合計	101,681	106,781	△ 5,100

	2023年9月末		
	貸借対照表計上額	取得原価	差額
株式	968	897	70
債券	65,525	69,945	△ 4,420
その他	35,299	37,273	△ 1,973
合計	101,792	108,116	△ 6,323

### ③その他有価証券で時価のないもの

(単位:百万円)

	2023年3月末	
	貸借対照表計上額	
非上場株式等	123	

	2023年9月末	
	貸借対照表計上額	
非上場株式等	121	

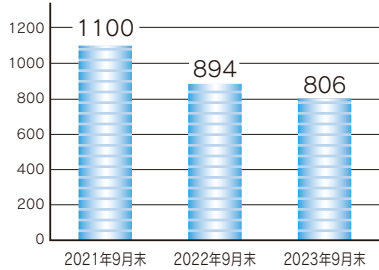
## 収益の状況

(2023年9月30日現在)

### 業務純益

**8億6百万円**

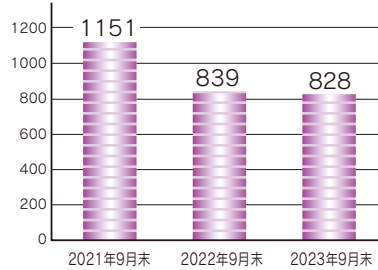
(単位:百万円)



### 経常利益

**8億28百万円**

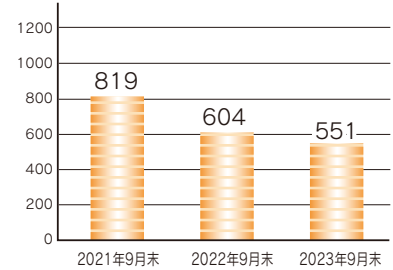
(単位:百万円)



### 当期純利益

**5億51百万円**

(単位:百万円)



### 用語説明

- 経常利益 業務純益に株式の売買損益や不良債権の処理に要した費用などの臨時損益を加減したもので、金融機関の経常的な営業活動の成果を示したものです。
- 当期純利益 経常利益に突発的な収益や費用(特別利益・特別損失)を加減し、法人税等を控除したものです。

## 信用金庫法開示債権(リスク管理債権)及び金融再生法開示債権の保全・引当状況

不良債権比率は、3.81%で、期首より0.03% 減少しました。

当金庫は、充分な引当を実施しており、内部留保とあわせて不良債権に対する備えは万全です。

(単位:百万円)

区分	2023年3月期	2023年9月期					
	開示残高	開示残高(a)	保全額(b)	担保・保証などによる回収見込額(c)	貸倒引当金(d)	保全率(%) (b/a)	引当率(%) d / (a - c)
破産再生債権及びこれらに準ずる債権	2,652	2,428	2,428	1,031	1,397	100.00	100.00
危険債権	3,364	3,580	3,050	2,576	474	85.20	47.25
要管理債権	2	2	2	2	0	100.00	—
三月以上延滞債権	2	2	2	2	0	100.00	—
貸出条件緩和債権	—	—	—	—	—	—	—
小計(A)	6,020	6,011	5,482	3,610	1,872	91.19	77.98
正常債権(B)	150,671	151,665					
総与信残高(A)+(B)	156,691	157,677					
不良債権比率(A) / 総与信残高 × 100	3.84%	3.81%					

- (注) 1. 「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」とは、破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。  
 2. 「危険債権」とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権で、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」に該当しない債権です。  
 3. 「要管理債権」とは、信用金庫法上の「三月以上延滞債権」に該当する貸出金と「貸出条件緩和債権」に該当する貸出金の合計額です。  
 4. 「三月以上延滞債権」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸出金で、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」及び「危険債権」に該当しない貸出金です。  
 5. 「貸出条件緩和債権」とは、債務者の経営再建等を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」及び「三月以上延滞債権」に該当しない貸出金です。  
 6. 「正常債権(B)」とは、債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がない債権であり、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」及び「要管理債権」以外の債権です。  
 7. 「担保・保証等による回収見込額(c)」は、自己査定に基づいて計算した担保の処分可能見込額及び保証による回収が可能と認められる額の合計額です。  
 8. 「貸倒引当金(d)」には、正常債権に対する一般貸倒引当金を除いて計上しております。  
 9. 「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」及び「正常債権」が対象となる債権は、貸借対照表の「有価証券」中の社債(その元本の償還及び利息の支払の全部又は一部について保証しているものであって、当該社債の発行が有価証券の私券(金融商品取引法第2条第3項)によるものに限る。)、貸出金、外国為替、「その他資産」中の未収利息及び仮払金並びに債務保証見返の各勘定に計上されるもの並びに注記されている有価証券の貸付けを行っている場合のその有価証券(使用貸借又は貸借契約によるものに限る。)です。

## 自己資本（経営の健全性がわかる指標）

自己資本比率は、経営の安定性を示す最も重要な指標といわれ、国内基準では、4%以上を保つよう義務づけられています。当金庫の2023年9月期の自己資本比率は、2023年3月期より0.12%程度増加し17.43%程度となりました。国内基準4%・国際基準8%を大幅に上回り、経営の健全性を維持しております。

(単位:百万円)

項目	2022年9月	2023年3月	2023年9月
自己資本額 (A)	31,075	31,633	32,183
リスク・アセット等 (B)	185,868	182,733	184,640
自己資本比率 (A) / (B)	16.71%程度	17.31%	17.43%程度
総所要自己資本額 (B) × 4%	7,434	7,309	7,385

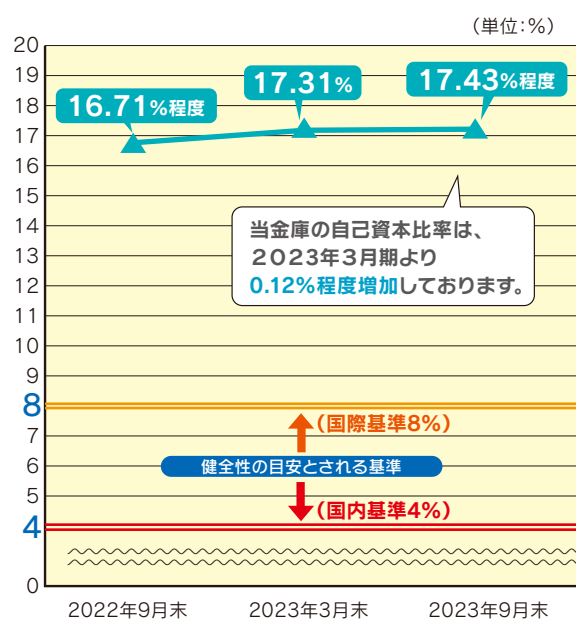
\* 2014年3月期よりパーゼルⅢ(国内基準)を適用しています。

\* リスク・アセットとは、リスクを有する資産(貸出金や有価証券など)を、リスクの大きさに応じて掛け目を乗じ、再評価した資産金額。

\* 総所要自己資本額とは、リスク・アセットの総額×4%(自己資本比率規制における国内基準)。

### ■自己資本比率の推移

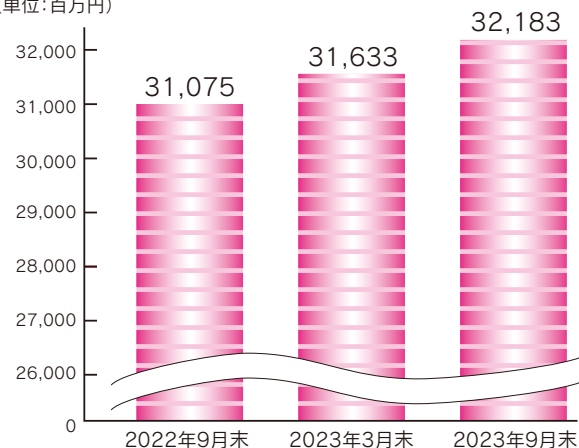
# 17.43%程度



### ■自己資本額

# 321億円

(単位:百万円)



#### 自己資本額(コア資本)

会員から受け入れた出資金と、内部留保(利益剰余金)、一般貸倒引当金等の合計であり、返済の必要のない資本です。

2014年3月期より新たなBIS規制(パーゼルⅢ)として盛り込まれました。従来は「基本的項目」「補完的項目」などに分類していましたが、最も安定度が高い資本を新たにコア資本として求められております。自己資本額は、2023年3月期より、5億50百万円増加しております。

## ゆめタウン飯塚にATMを出店しました。

ゆめタウン飯塚の開店にともない、お客さまの利便性向上に向けた取組みの一環として、店舗内1階のATMコーナーにいいしんATMを出店いたしました。

稼働時間は、9:00～21:00となっておりますので、いつでもご利用ください。

